

Comprehensive Cardiovascular Risk Profile

循環器リスク総合検査 検体作成手順

検体採取を行う前にお読みください:

この説明書は、全部読んで、検体採取手続きになれてください。

この検査のための特別な食事は必要ありませんが、採血は一晚絶食した後の朝食前に行うことが勧められます。その他の採取時間では、検査結果に偏りが生じる原因となり得ます。医師から特別な指示がない限り、検体採取 24 時間前から、不必要な投薬やサプリメントを控えてください。また、医師との相談無しに処方薬の服用を中断しないでください。

採血を行う人に: 検体の混濁を予防するために、付属の微量元素を含まないチューブを使用してください。採血にその他のチューブを使用すると、偽陽性の結果が生じることがあります。複数のチューブに採血を行う場合、青色ふたの微量元素チューブを最後にしてください。溶血した血清は検査には使用できません。

検査キットの中身を確認してください

検査申込書.....	1 枚
発泡スチロール製の箱.....	1 個
保冷剤.....	1 個

“refrigerate (要冷蔵)” の印が入ったジップロックバッグ

赤色ふたの血清チューブ.....	1 本
EDTA が入った紫色ふたのチューブ.....	1 本
EDTA が入った青色ふたの微量元素チューブ.....	1 本
吸収性パッド.....	1 枚

“freeze (要冷凍)” の印が入ったジップロックバッグ

透明な血清トランスファーバイアル.....	1 本
琥珀色の血漿トランスファーバイアル.....	1 本
プラスチック製のトランスファーピペット.....	2 本
吸収性パッド.....	1 枚

- ◆ 不足品・不明な点があった場合、デトックスまでご連絡ください。

Tel: 03-5876-4511, Fax: 03-3222-5770, Email: askkensa@detox.jp

- ◆ 検体採取キットが入っている段ボール製の箱(発送箱)は米国ラボへ郵送する際に使用するのので、捨てないでください。

採取手順(絶食中の朝に採血することが勧められます):

- 1) 赤色ふたの血清チューブ 1 本、EDTA が入った紫色ふたのチューブ 1 本、EDTA が入った青色ふたの微量元素チューブ 1 本それぞれに採血します。青色ふたの微量元素チューブには最後に採血してください。内容物と混ぜるために、紫色ふたのチューブと青色ふたの微量元素チューブを 10 回反転させます。
- 2) 少なくとも 15 分かけて、赤い蓋のチューブに凝固が出るまで放置します。
- 3) 紫色ふたのチューブに、患者氏名、生年月日、検体採取日を記入します。患者情報が記載されていないチューブは、検査できません。紫色ふたのチューブを“refrigerate(要冷蔵)”と記されたジップロックバッグに入れます。
- 4) 15 分後、赤色ふたのチューブと青色ふたのチューブを 10 分間遠心分離します。その後遠心分離器から素早く取り出してください。
- 5) **赤色ふたの血清チューブからの血清検体の作成:**トランスファーピペットを使用して、凝固した赤色ふたのチューブの血清を透明な血清トランスファーバイアルへ移します。3mL の線まで血清を入れてください。**溶血した血清は使用できません。**使用したピペットと赤色ふたのチューブは内容物ごと廃棄してください。
- 6) 透明な血清トランスファーバイアルのふたを閉め、患者氏名、生年月日、そして検体採取日をバイアルに記入します。**患者情報が記載されていないバイアルは検査できません。**この血清トランスファーバイアルを“freeze(要冷凍)”と記されたジップロックバッグに入れます。
- 7) **青色ふたのチューブからの血漿検体とRBC(赤血球) 検体の作成:**別のピペットを使用して、青色ふたのチューブに入っていた血漿を、琥珀色の血漿トランスファーバイアルに移します。3mL の線まで入れてください。赤色ふたのチューブで使用したピペットは使用しないでください。
- 8) 青色ふたのチューブに残っている血漿と軟膜を赤血球細胞の表面から取り除きます。赤血球細胞層の最表層を取り除けば、検体は赤血球細胞のみになります。よって、表層の赤血球を捨てます。
- 9) トランスファーバイアルの蓋を閉め、また、赤血球の入ったチューブに青いラバーのふたをかぶせます。
- 10) トランスファーバイアルと青色ふたチューブの両方に、患者氏名、生年月日、そして採取日を記入します。**患者情報が記載されていないバイアルやチューブは、検査できません。**
- 11) 琥珀色の血漿トランスファーバイアルを“Freeze(冷凍)”と記されたジップロックバッグに入れます。“Freeze(冷凍)”とラベルされたジップロックバッグと保冷剤を冷凍庫に入れ凍らせます(通常最低で6時間かかります)。
- 12) 赤血球の入った青色ふたのチューブを、別の“Refrigerate(冷蔵)”と記されたジップロックバッグに入れます。これを発送の準備が出来るまで、冷蔵庫に入れておきます。

- 13) 検査申込書の検体採取情報欄(右上の隅)に検体採取日、時刻、そして、Yes No で、絶食状態で採取したかどうかを記入します。検査申込書の残りの部分を完全に記入して署名します。**検査申込書の記入に不備がある場合は、検査できません。**
- 14) 発送の準備が出来たら、冷凍した検体が入っているジップロックバッグと保冷剤を取り出します。凍った保冷剤を発泡スチロール製の箱の底に入れ、次に、凍った検体が入っているジップロックバッグと冷蔵した検体が入っているジップロックバッグを保冷剤の上に置きます。発泡スチロール製のふたを閉め、段ボールで出来た発送用の箱に入れます。
- 15) 完全に記入した検査申込書を段ボール製の発送箱の中に入れます。これで発送の準備が整いました。同梱の「FedEx 検体発送方法」をご覧ください。

最善の結果を得るために、ドクターズデータ社では、可能な限り早く検体を発送することを勧めています。週末や休日にかかるため検体採取日に検体を発送できない場合は、検体を発送できる日まで、トランスファーバイアルを冷凍庫に、そして紫色と青色ふたのチューブを冷蔵庫に保存してください。